

1	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102001	無限可積分系の幾何学とモジュライ理論の展開	上野 健爾（京都大学・大学院理学研究科・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>本研究は無限可積分系とモジュライ空間の内在的結びつきの解明を最終目標とし、この目標に向けて本研究グループは、既に共形場理論、<math>p</math>進幾何学、数論幾何学、具体的な無限可積分系の研究において著しい成果をあげている。今後も本研究によるスケールの大きな優れた研究成果を期待できる。これらの成果は多くの分野に強い影響を持つものと思われる。研究計画・方法については全般に妥当と言えるが、本研究課題の広がりから、研究分担者および、例えば数理物理学のような関連分野の研究者のより積極的な交流を期待したい。</p>				
2	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102003	銀河系およびマゼラン銀河内の膨張ガスシェルの観測的研究	福井 康雄（名古屋大学・大学院理学研究科・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>本研究は我々の銀河系および、我々の銀河系に最も近い系外銀河である大小マゼラン銀河に対して、ミリ波掃天観測を行い、分子ガス雲の分布と運動の全貌を明らかにするものである。</p> <p>観測計画はこれまで予定通りに進捗しており、分子ガス雲の分布と構造を明らかにしてきている。今後はスーパーバブルの同定法の早期確立を期待する。</p> <p>一方で本研究は計画の一部を変更して、望遠鏡をより高地に移設する作業を行っている。このため移設作業を迅速に進め、研究期間内に研究目的を達成させることが望まれる。</p>				